

(様式2)

演 題 名	肥育農場におけるクロストリジウム感染症の発生と対応		
発 表 者 氏 名	稲葉 真	所 属	伊那家畜保健衛生所
<p>2009年4月、管内肉用牛肥育農場（飼養頭数500頭）で突然死した肥育後期牛の病性鑑定を実施。死亡牛（交雑種、去勢、26か月齢）は敗血症の変化を呈するとともに、脾臓、腹水及び気管分泌液から Clostridium perfringens A 型菌を分離。解剖所見及び細菌検査の結果から Clostridium 感染症と診断。飼養牛群は IBR5 種混合不活化ワクチンの接種のみで、本病予防ワクチンは未接種。このため、2009年7月、牛嫌気性菌5種混合トキソイドワクチンの接種を指導。ワクチン接種効果を確認するため、抗体価の推移を調査。また、本病ワクチン接種に当たり、多頭数に接種するため無針注射器も利用。さらに飼養管理状況を把握し、生産性の向上を図るため脂溶性ビタミン検査を含めた血液生化学性状検査も実施。その結果、ワクチン抗体価は無針注射器利用群、注射器利用群とも有意に上昇し効果を確認。ビタミンコントロールもあわせて指導した結果、当該農場は2008年12月から12頭の突然死が発生していたが、ワクチン接種後、突然死は未発生。</p>			